

平成 28 年度

# 学校経営方針

昭島市立共成小学校

## 平成 28 年度 学校の経営方針

昭島市立共成小学校

校長 石井 世津子

昭島市には、平成 27 年度から 32 年度までの 5 年間を計画期間とする『第 2 次昭島市教育振興基本計画』があります。学校教育においては、学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむために「確かな学力の定着」「豊かな心の醸成」「健やかな体の育成」「輝く未来に向かって」の 4 つの基本方針により、具体的な教育の方向性が示されています。

昭島市の小学校として目指すべき教育の姿と、実現のための施策を受けとめ、日々の教育活動を展開していきます。

平成 28 年度は創立 40 周年の節目の年です。本校は、地域の皆様方のご支援をいただきながら、教育環境の充実を図る取り組みを推進していきます。

また、小学校 6 年間、中学校 3 年間の計 9 年間を義務教育の一つの枠組みとしてとらえ、「小中連携に向けた連続性のある教育活動の展開」を目指して取り組んで参ります。

学習指導要領の中核的課題である「生きる力」を育むことについて、本校では、子供が目的に向かって学習に取り組み、学んだことを自分の言葉で伝えることができる授業を実践するとともに、「できる 分かる喜びを全ての子供たちに育む」ことを目指し、教育活動を展開していきます。

以上のことから、本年度の学校経営についての考えを下記のようにまとめました。子供たちの心豊かな成長を願い、教職員一丸となって取り組み、一歩ずつ着実に前進する共成小学校にしていきます。

### 保護者・地域の皆様へ

「平成 28 年度学校経営方針」は、先に本校教職員に示しています。職員は教育目標の共通理解を深めながら、子供の教育に当たります。

この地域には子供を育てる教育の基盤があること、教育が家庭に始まり、学校と地域が組織的に且つ計画的に教育を行うという考えが根付いていることを共通の認識とし、学校と地域が一体となって子供を育てていく姿勢を一層明確にしていきます。

## I 昭島市の学校教育の目標と基本方針

### ◎学校教育の目標

#### 1 目標

教育委員会は、市民憲章と人間尊重の精神を基調とし、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童・生徒を育成する。また、学校・家庭・地域の密接な連携のもと、ふるさと昭島の自然や文化を愛し、社会に主体的に貢献できる「たくましい昭島っ子」の育成を目指す。

#### 2 基本方針

教育委員会は、日本国憲法及び教育基本法の精神に基づき、人権尊重の理念を正しく理解し、思いやりの心や社会生活の基本的ルールを身に付け、社会に貢献しようとする精神を養うための教育を実施するとともに、学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむため、本市の教育振興基本計画に基づき教育を推進する4つの柱、「確かな学力の定着」「豊かな心の醸成」「健やかな体の育成」「輝く未来に向かって」を推進する。

### ◎学校教育の目標を達成するための基本方針

プラン1 確かな学力の定着

プラン2 豊かな心の醸成

プラン3 健やかな体の育成

プラン4 輝く未来に向かって

プラン5 生涯学習の推進 ……市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習

(昭島市の学校教育の目標の実現のため、本校では具体的な教育活動を計画していきます。)

## II 責任と自信、目標をもった日々の教育活動

- 1 学んだことを使ってさらに伸びる子供を育てよう
- 2 子供が自らの成長を実感できるようにしよう
- 3 「共成小の授業」をつくろう
- 4 学校全体に和する心を育む教育の風土をつくろう
- 5 地域と共に子供を育てるという考えをもとう

これらのことを実現するため、以下のような具体的な教育活動を推進する。

## III 本校の教育目標

目標は保護者・地域の方々への公約であり、この目標に向かって、計画的に段階的に実現していくのが教育活動であると考えています。

よって、各学年及び専科の指導に当たっては、子供の発達段階に合わせてより具体的な目標を定め、結果を出す努力を日々重ねていきます。

- 共成小学校の教育目標
- 助け合う子
  - 考える子 … (28年度の重点目標)
  - きたえる子

#### IV 共成小学校の目指す学校像

##### ◎子供が行きたくなる学校

- 子供同士が仲良く過ごせるようにする
  - ・互いのよさを自覚でき、良いことと悪いことを判断し、理解できるようにする  
(相手意識と自己有用感を高める)

##### ◎子供に「力」が付く学校

- 子供同士が啓発し合う学習を展開する
  - ・友達と意見を交流させ、よりよい考えを生み出すようにする
  - ・互いの言葉や考えを大事にして、刺激し合う学習をすすめる
  - ・既習事項を生かした自力解決をすすめる
  - ・新たな課題に挑戦する
- 土曜補習、放課後補習、夏季チャレンジスクール等を行い、基礎基本の定着を図る

##### ◎子供の感性を育てる学校

- 子供の心をゆさぶる指導を目指す
  - ・本物に出会わせる……専門家による音楽の生演奏、演劇等の鑑賞  
「オリンピック・パラリンピック教育推進校」としてアスリートによる指導、外国選手との交流等  
「日本の伝統・文化の良さを発信する能力・態度の育成推進校」として専門家による指導
- 人権感覚を高める指導を目指す
  - ・人権尊重教育推進校として、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようにする

##### ◎保護者・地域と共に歩む学校

- 保護者・地域の期待に応えるようにする
  - ・学校評価等のアンケートの活用と保護者・地域との連携の強化を図る
  - ・学校公開、各種行事、教育実践等、学校の取り組みを伝え、理解を深める
  - ・創立40周年を地域・保護者と共に祝う。

#### V 28年度の重点課題

##### (1)進んであいさつをする学校にする

- ◎校内で「おはようございます」「こんにちは」のあいさつをする。来校された方に

は、誰もが声をかけ、あいさつをする。

- 生活指導年間目標での実践、振り返りを行う。
- PTA・地域との連携を図り、あいさつの輪を広げる。
- 美しく、気持ちのよい言葉遣いを徹底する

## (2)学び合い、高め合う授業を創る

- 学習課題が分かり、友達の考えや意見について、根拠をもって発言（賛同意見・質問）ができ、学び合う活動が活発になるようにする。
- 自分の考えを説明できると共に、子供自らが新たな課題を発見できる授業を創る。
- 各教科指導を通して、社会性・情操を高める指導の工夫を行う。
- 各教科の中で人権教育をすすめる。
- 学級満足度調査を実施し、個に応じた支援や集団への支援の徹底を図る。

## (3)健康・体力の向上を目指す学校にする

- 基礎的な体力づくりを目指す体育授業を展開する。
- 体力づくりのため子供の運動の場を設け、意欲喚起のための工夫を行う。
- 体育、健康に関する全体計画、体力向上推進計画、オリンピック・パラリンピック教育の全体計画、年間指導計画に基づき、体力向上・健康づくりに自ら意欲的に取り組む態度を養う。
- 継続的な体力づくりをすすめる（一校一取組、一学級一実践、体育集会、体力向上週間、体力テスト等の活用）。
- 外部講師による体力向上に向けた指導を実施する。
- 学校生活を通して、体力の向上が実感できると思う子供を育てる。
- 食育の年間指導計画の活用・保護者との連携を重視し、食育の推進を図る。
- 不登校・いじめ撲滅を目指し、日常の子供の変化を敏感に捉えるとともに、保護者との連携を密にし、適切な対応に努める。

## (4)歌声の響く学校にする

- 全学年が、校歌を丁寧に伸びやかに歌えるようにする。
- 学年の歌声紹介を企画・実施する。合唱の美しさや楽しさを共有する。
- 全校児童で歌える歌を選曲し、指導する。
- 美しい合唱に触れさせ、心を豊かに育てる。  
（音楽集会、授業、学級（心が歌声になる日）、各行事等での育成を目指す）
- 友達の歌声のよさに気付かせ、合わせる喜びを味わわせる。

## (5)豊かな感性を育む学校にする

- 本物の指導に触れさせ、子供の感動を引き出す（声楽家・茶道講師・和楽器奏者・アスリート等）。
- 美しいものを美しいと感じることのできる心を育む。
- 目標を明確にした計画的な指導を通し、子供の成就感・達成感を高め、自己有用

感を育む。

○学校全体の美化活動を進める。

・清掃指導、掲示板の活用、廊下の掲示物、花壇、芝生、靴をそろえる等

○友達の努力を認めることができ、友達の助けに感謝できる子供を育てるために、日々の学級指導の中で地道に指導を重ねていく。

○「日本の伝統・文化のよさを発信する能力・態度の育成事業」の指定を受け、子供に日本の伝統・文化のよさにふれ、その良さを発信できる態度と力を育む。

○茶道体験を通して茶道の歴史、基本と実技を学び、茶道のよさを味わわせる(6年)。

## VI 子供の前に立つ教師へ

### (1)居場所のある学級をつくろう

子供が学校に来て、安らぎを感じるところはやはり学級である。教師自身、優れた人権意識をもって子供と向き合い、子供が自分をいつも見ていて話しかけてくれる先生と友達がいると感じる学級を創ろう。日々の学校生活の中で起こる子供同士のトラブルには、常に子供を成長させ、優しい心を育てる機会と捉え、指導しよう。そして、自分のことを振り返られる子供を育てていこう。

### (2)授業で子供を刺激し、高め合う教室にしよう

教室は子供にとって一番の生活の場であり、学習の場である。子供同士に“学習する仲間”としての意識が芽生えれば、相互啓発のある豊かな学級になるであろう。その環境を作るには、教師の言葉・発問の研究が大切になる。子供に問いかける言葉について、教師は深く考えよう。

### (3)児童理解を深めることをいつも目指そう

普段の学習、生活の場で、子供は「私のことをわかってくれない」と、感じていることがあるのではないかと思って子供を見つめてみよう。子供は味方を欲しがっているに違いない。その心に共感することで、指導すべきことが見えてくることもある。子供には子供の考え方の筋道がある。そこを受けとめ、指導につなげることができるか、教師も見つめよう。

### (4)教えるべきことを教えよう

教えるべきことは、徹底して教えよう。主体性を大切にするには必要だが、教えるべきことを教えられる学校になろう。特に規範意識の定着を発達段階に合わせて目指そう。教えるべきことを徹底して教えられる教師へ、挑戦しよう。

### (5)理解を高めて、さらに察知できるように指導しよう

避難訓練では、命を守ることの大切さや安全に避難することの大切さが理解できることを目標とするだけでなく、子供自らが命を守る上で災害発生時の危険を察知できるように指導していかなければならない。

#### (6)保護者の期待に応える教師を目指そう

第一に、子供の生命の安全確保である。その上で教育の充実を図っていく。また、病気や事故発生の際の適切な対応が欠かせない。学習指導、学級活動にあっても、危機管理は重要である。子供にも安全確保の大切さを教えなければならない。

第二に、教師としての技量を自らも磨き、自己の能力や経験を生かせるようにしよう。そして、子供の今ある姿を出発点と考え、個々の可能性を引き出そう。

#### (7)未来を見つめる教師集団となろう

私たちは、将来の日本を支えていく子供たちを預かっている。私たちの経験したことのない社会を生きることになる。2020年のオリンピック・パラリンピックにおいても夢と希望をもちながら、未来に思いを馳せ、子供たちに接していこう。

そして、日本の伝統・文化を継承する心を大事に育てていこう。

#### (8)教育課程の実施は職員全体で行おう

事務主事、用務主事、給食配膳員、管理員、授業指導補助員、臨時職員のそれぞれが「子供のため」との思いをもって任務に就いている。だから子供は安全で元気にいられる。学校には職員一人一人の工夫の跡が見られ、その心が見える。全員で子供の教育に当たる学校を創ろう。